

モデル事業名	四万十川・R I V E R会員制度を活かした地域資源活用プロジェクト
活動団体名	株式会社四万十ドラマ
ホームページ	http://shimanto-drama.jp
所属/ 担当者名	研究員 佐々倉玲於
連絡先	0880-28-5527 leosasakura@gmail.com
活動地域	しまんとがわちゅうりゅういき とおわ たいしょうちく げん しまんとちょう にしときちく げん しまんとし 四万十川中流域 (十和・大正地区(現・四万十町)、西土佐地区(現・四万十市))

● **活動の内容** (直近1年間の活動状況など)

● **人材育成プログラムの実施**

3年前に採択を受け実施した「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業の調査・研究が土台となって、人材育成のノウハウが身につく始め、平成22年度からは、経済産業省の補助を受けての起業家育成プログラムの実施や、内閣府事業を活用して、1ヶ月地域に住み込んで実施するインターンシップの受け入れを取り組むようになった。この事業を通じて、今までに165名の若者が四万十川流域の事業者の元で働き、そのうち20名が定住につながるという現象が起こった。



田舎に関心を寄せる若者・よそ者が地域に暮らすことによって、若者は地域のことを知りたいと積極的に地域住民に話しかけ、地域産業のこと、伝統文化や風習、地域料理の作り方などを学んで行く。地域住民は、若者から聞かれ答えることで、改めて自らの生活や地域を見つめなおす機会となり、地域への愛着や誇りを深めることにつながる。また、インターンシップを終えた若者は、四万十ファンとなり、自らの地域に帰っても、四万十の魅力を語り、何かあれば応援してくれる仲間となった。

これまで地域内外をつなぐコミュニケーションの手法として、広報誌やイベントなど既存の方法論を模索してきた。しかし、上述したように「若者」「よそ者」という新しい人材が媒介となって、地域内外の人と人、人と組織、組織と組織、組織と地域をつなぎ、薄れていたつながりを再構築してくれるということが見えてきた。また、このインターンシップ事業の可能性も見出し、持続可能な仕組みとして成り立つようにこれから展開して取り組もうとしている。

● **一般社団法人いなかパイプの設立**

人材育成事業を継続的に実施していくために、平成22年11月に一般社団法人いなかパイプを設立し展開していくこととなった。内閣府事業終了後、継続的なプログラムをつくり現在募集し始めたところで、これまでできた人と人とのつながりを活かして、広報展開を行い、新しいつながりをつくり、広げていきたいと考えている。

● **今後の課題及び展望**

・(今後の活動及び活動を通して発見された課題等を記入)

この3年間の取り組みで、地域を受け継いでいくために何が必要かということを探ってきたが、やはり「人」が必要で、いくらITが発達したとしても、人は人でしか動かないと実感させられた。また、これまで若者の流出が嘆かれてきたが、田舎で暮らしたい若者は多く存在しており、その若者に対して、田舎側から「ここで暮らさないか」「帰ってこないか」というメッセージを若者に伝わるように発信していなかっただけであることがわかった。これらの取り組みで得られた知見を活かし、「人と人のコミュニケーション」をこれからも続け、深め、広げていきたい。